

ニュース詳細

ノーベル賞に道内からも祝福

10月04日 18時39分



3日、ノーベル医学・生理学賞の受賞者に東京工業大学栄誉教授の大隅良典さんが選ばれました。

道内のゆかりの人たちからも祝福の声が寄せられています。

日本人のノーベル賞受賞は3年連続で、今回の大隅さんの業績は、生物に備わっている生命の基本的な仕組み「オートファジー」を解明したことです。

神経の病気やがん治療などの新たな研究につながる道を開きました。

「オートファジー」は、『自分を食べる』という意味で細胞内における「自食作用」の仕組みを表しています。

具体的には、細胞は、栄養が足りない状態になると、生き残るためにみずからの中にあるたんぱく質などをアミノ酸に分解し、新しいたんぱく質の材料やエネルギー源として利用します。

古くなったり傷ついたりして要らなくなったたんぱく質も、同じように分解し再利用しています。

この仕組みが「オートファジー」で、細胞の働きを正常に保つうえで欠かせないものです。

「オートファジー」は、酵母から植物、動物のヒトまで、細胞に核のあるすべての生物に備わっていて、大隅さんは、この、細胞内の根源的な生命現象を遺伝子レベルで解明しました。

「オートファジー」に関連したこれまでの研究ではパーキンソン病などの神経の病気の一部で、「オートファジー」の遺伝子が正常に機能していないことがわかっています。

また、がん細胞の増殖に「オートファジー」が関係していると考え、「オートファジー」の働きを妨げることでがん治療につなげる臨床試験も、海外で行われています。

大隅さんと、大学生のころから50年来の親交があるという北海道大学名誉教授の五十嵐靖之さんは、「友人としてとてもうれしい。大隅さんは、小さな研究室でお金をかけず苦労しながらコツコツと研究してきたのでその成果が目の目を見てよかった。奥さんとゆっくり喜んでもらいたい」と祝福していました。

五十嵐さんは、大隅さんと東京大学の学生時代の同期で、いまま家族ぐるみのつきあいがあり、一緒にお酒を飲んだり温泉旅行に行ったりする仲だということです。

ことし6月にも東京都内で大隅さんと会ったということで、「彼はノーベル賞にあまり興味がなさそうだったが『自分が受賞することで基礎研究に光が当たり若い人たちがもっと科学の分野に飛び込んできてもらいたい』と語っていた」と話していました。

五十嵐さん自身もアルツハイマー病の治療方法を探る研究を進めているということで、「さまざまな病気にオートファジーが関わっている可能性があり、彼の解明したことが、多くの研究者のヒントになっていると思う。いずれ新薬の開発につながるかもしれない」と今後の研究の広がり期待を寄せていました。

シェアする ?



新着ニュース

- ➔ 正面衝突 2人死亡1人重体 [動画](#)
- ➔ 今季初の氷点下 旭川で初霜 [動画](#)
- ➔ タックスヘイブンが森林取得 [動画](#)
- ➔ 大統領にひな人形 女性死去 [動画](#)
- ➔ 日ハム ドームに要望書提出 [動画](#)
- ➔ 砂利採取の対象河川拡大検討 [動画](#)
- ➔ 密漁検挙件数 去年を上回る [動画](#)
- ➔ 道央道で衝突事故 3人死傷
- ➔ JR10無人駅廃止方針固める [動画](#)
- ➔ 小林麻央さんのブログで力 [動画](#)
- ➔ 高校生が被爆の実態を学ぶ [動画](#)
- ➔ 9月の稚内市 記録的な雨に
- ➔ 道央道で事故 3人死傷 [動画](#)
- ➔ 養護学校 朝食に異物混入
- ➔ 暴風・高波に警戒を [動画](#)

